Honda の交通安全情報紙　SJ 2019 年 6・7 月号（No.496）6 月 20 日発行

06-07 2019 JUN.JUL.

SJ

The Safety Japan since 1971

Safety Report　セーフティルポ 子ども①

児童の「気づき」を促し、安全行動の実践へとつなげる

警察庁の資料によれば、小学生の交通事故死者・重傷者数（平成 26 ～ 30 年の合計）を学齢別・状態別にみると、小学 1・2 年生は歩行中に事故に遭うケースが多く、学年が上がるにつれて自転車乗用中の割合が高くなっている。小学生に対する交通安全教育は、成長段階に応じたアプローチが必要であるといえる。そうした観点から、Honda は小学生向けに様々な交通安全教育プログラムを開発してきた。今回は、その活用事例を紹介する。

「あやとりぃ」の「実験①すぐに止まれるかな？」。全力疾走する児童に笛の合図が聞こえたら止まってもらう

笛を吹いた地点にパイロンを置いて、実際に止まった地点との差があることを示す

事例１　あやとりぃ ダイジェスト版

指導者がより理解しやすく、
幅広く活用できるよう、一部をリニューアル

小学生向け交通安全教育プログラム「あやとりぃ（“**あ**んぜんを **や**さしく **と**きあかし **り**かいして **い**ただく”の略）」は、子どもたちに道路上の危険について知ってもらうとともに安全に通行するための方法を理解することで、子どもの事故を防止することを目的として 1997 年に Honda が開発。交通安全の知識を単に教え込むのではなく、指導者の問いかけを通じ、子どもたち自らが安全に対して考えることによって「気づき」を促すことをめざし作成された。交通場面のイラストなどを使った座学や児童が参加できる実験で構成された教材を通して、子どもたち自らが危険を予測して行動する能力を身につけ、事故に遭わないためにはどうすれば良いかを考えながら学べる内容となっている。今年 3 月には、子どもたちの安全意識を高められるよう内容を見直し、指導者がより理解しやすく、幅広く活用できるよう、指導マニュアルも一部リニューアル（実験部分のマニュアルを新たにつくり、映像化）し、DVD 版となった。

福井県坂井市は、この「あやとりぃ」を小学 2 年生を対象に取り入れ、指導に活用していると同市総務部安全対策課交通指導員 伊藤恵子さんは話す。「1・2 年生は合同で歩行者教育を行うことが多いのですが、1 年生と 2 年生では内容を変えたほうが良いと考えていました。そこで、2 年生には『あやとりぃ』を使ってみることしたのです」。

5 月 30 日、坂井市立大石小学校で交通安全教室が開催され、2 年生 44 名に伊藤さんが「あやとりぃ」による指導を行った。

最初に、伊藤さんは「道路を人や乗り物が安心して行ったり来たりできること、これが交通安全です。だから、皆さんが安全に外を歩けるように、交通ルールやマナーについてお話をしたいと思います」と交通安全の意味を説明。様々な交通場面のイラスト（2 面参照）をスクリーンに映し出し、道路の安全な渡り方を児童と一緒に考えていく。

実験に参加してもらうことで
児童の気づきを促す

「ここで、皆さんと実験をしてみたいと思います」と、伊藤さんは「実験①すぐに止まれるかな？」を始める。児童の代表者が伊藤さんの吹く笛を合図に全力疾走を始め、2 回目の笛の音を聞いたら、すぐに止まるというもの。そのほかの児童は 2 回目の笛がどの地点で鳴るかを観察する。走った児童は止まった地点に残っていてもらい、感想を尋ねると「すぐには止まれなかった」と答えた。次に、2 回目の笛が聞こえた地点を観察していた児童に聞き、その場所にパイロンを置いて、笛が鳴った地点と実際に止まった地点には差があることを示した。

Contents

P1　Safety Report セーフティルポ 子ども①
P4　Safety Report セーフティルポ 子ども②
Safety Info. インフォメーション
P5　Close Up クローズアップ 四輪販売会社①
Close Up クローズアップ 四輪販売会社②
P6　SJ Interview　高知大学医学部精神科 講師 上村直人さん
P7　All About SAFETY　安全をいかに創造するか
P8　危険予測トレーニング（KYT）
SJ クイズ

Safety for Everyone

Honda はすべての人の
交通安全を願い活動しています。

SJ ホームページは　ホンダ　SJ　検索

編集室：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内
〒 107-8556 東京都港区南青山 2-1-1
TEL：03(5412)1736
https://www.honda.co.jp/safetyinfo/
編集人：中嶋英彦

※ご不明な点がございましたら、下記までお問合わせください。
㈱アストクリエイティブ安全運転普及本部係
TEL：03(5439)1191
E-mail：sj-mail@spirit.honda.co.jp

「走っていると、急に止まろうと思っても、その場所では止まれないということがわかったと思います。では、クルマの場合はどうなるでしょう」。スクリーンに 40km/h と 50km/h で走るクルマの停止距離が、それぞれ約 22m、約 32m と表示される。22m という距離はどのくらいの長さか、メジャーを使って児童に確認してもらうと、あまりの長さに皆、驚いていた。
「スピードを出しているクルマはすぐには止まれません。見通しの悪いところを横断する時は絶対に飛び出さず、必ず止まってください。交通安全のお約束、1 つ目は『止まる』です」。
続いて「実験②見えないと助けられない」。見通しの悪い場所には見えない危険があることに気づいてもらうための実験だ。机の上には内側が見えない筒と、その先に人形が置かれている。伊藤さんはボールを持ち、「このボールはクルマ、筒は道路だと思ってください。今から、このクルマが道路を走ってきます。筒の反対側からボールが出てくると人形にぶつかってしまうので、ボールが筒から出てきたら人形を持ち上げて、助けてあげてください」。
児童の代表者が気をつけの姿勢で筒と人形の前に立つと、伊藤さんが筒の中にボールを入れ、人形に向かって転がす。筒の中は見えないので、筒から出たボールは児童が反応する間もなく、人形にぶつかってしまった。
「では、もう一度助けてもらいましょう。次は、筒の中が見えるようにします」と伊藤さんが筒を透明のものに交換。今度はボールが筒から出た直後にぬいぐるみを持ち上げることができ、見ている児童から大きな拍手が起こった。児童の代表者は「人形を助けられて、うれしかった。透明な筒はボールがよく見えたので、やりやすかった」と感想を話した。
「見えるということはとても大切なことです。壁などで左右が見えない道路で、急に出てくるクルマはドキっとするよね。まわりが見えない場所では、のぞき込むようにしてクルマやバイクが来ていないかを確かめてください。交通安全のお約束、2 つ目は『観る』です」と伊藤さんはアドバイスした。
このような実験によって、「止まる」「観る」の大切さを児童に理解してもらえる点を伊藤さんは評価している。「実験に必要な道具は、マニュアルに従って私たちで用意できました。ワークシートなど映像資料もパソコンを使って見せることができるので、以前に比べて使いやすくなったと思います」。

様々な交通場面を提示して、自分ならどのような行動をとるか児童に考えてもらう

「実験②見えないと助けられない」。筒の中が見えない状態ではボールの動きがわからないので人形を持ち上げて、助けることができない

透明の筒に交換すると、中のボールの動きがわかるので、ボールがぶつかる前に人形を持ち上げて、助けることができる

事例２　小学生 自転車の交通安全

自転車のルールや安全な乗り方に対する理解を深める

大石小学校の交通安全教室では、3・4 年生 91 名に対する自転車教育も実施された。実技の前に行われた座学で、伊藤さんが活用したのは Honda の交通安全教育プログラム「小学生 自転車の交通安全」である。このプログラムは、小学生に自転車のルールや知識を学んでもらい、安全な乗り方を身につけてもらうことを目的として昨年９月に完成した。「あやとりぃ」同様、指導者の問いかけを通じ、子どもたちから意見を引き出しながら進められる点が特徴で、DVD に映像資料や指導マニュアルを収録している。
最初は自転車のルールについて。スクリーンに様々な交通場面を映し出し、自転車の通行すべき場所を説明していく。「自転車はクルマやバイクの仲間です。道路の左側の端を一列で走ります。皆さんは歩道があれば、歩道を走りましょう」。
ここで狭い歩道を走る自転車の前にベビーカーを押している人がいる場面が映し出された。「この場合、皆さんだったら、ベルを鳴らして、相手に避けてもらいますか？それとも、自転車から降りて道を譲ってあげますか？」と児童に問いかける。「歩道は、歩く人のための道です。このような時は歩いている人の迷惑にならないように、自転車から降りて押して歩きましょう」。
続いて、ヘルメットのかぶり方。ヘルメットをかぶった 3 人の子どものイラストが映し出され、この中に正しいかぶり方があるか伊藤さんが尋ねる。正解は、3 人とも正しくない。1 人目は、あごひもが緩い。2 人目は、頭の後ろ側にずらしてかぶっている。3 人目は、ヘルメットのフチが目にかかっている。「ヘルメットの先が、まゆげの上でまっすぐになるようにかぶります。あごひもは、指が一本入るくらいの長さに合わせます。きついと苦しいし、ゆるすぎると脱げてしまうから正しく締めましょう」とアドバイスした。
さらに、自転車の“かまえ”、ブレーキのかけ方について解説。「スポーツにも“かまえ”があるように自転車にもあります。両手ブレーキ、右足ペダル、左足着地、というのが自転車の“かまえ”です」。両手ブ

狭い歩道で歩行者がいる時は、このイラストのように自転車から降りて押して歩くように伝える

ヘルメットの正しいかぶり方はどれか、児童に問う（正解は、すべて正しくない）

イラストを使って、自転車の“かまえ”を説明

クルマが走ってくる右側に足を着いていると危険であることを理解してもらう

「止まれ」の標識がある交差点で考えられる事故を児童が答える

実技を始める前にヘルメットの正しいかぶり方を交通指導員や先生方が確認

レーキは、自分が気づかないうちに自転車が動いてしまうことを防ぐ。右足ペダルは、右のペダルを上にした状態で足をのせることでスタートがしやすくなる。左足着地は、クルマが走ってこない左側に足を着けることが安全と、それぞれに意味があることを児童に理解してもらう。「足の裏の広いところをペダルに合わせて踏むと、足の力がしっかり伝わり、こぎやすくなります。ブレーキは左ブレーキを使ってスピードを落としてから、両手ブレーキをかけてしっかり止まりましょう」。
最後に、自転車が見通しの悪い交差点を通過しようとする交通場面のイラストを提示し、どのような危険があるか児童に考えてもらう。「『止まれ』の標識がある交差点や見通しの悪い場所では、必ず止まって右、左、右そして右後ろからクルマが来ていないことを確かめてください」と伊藤さんは強調し、座学は終了した。

校庭や学校周辺の道路で
座学で学んだことを実践

座学を終えた３・４年生は校庭に出て、自転車の実技に取り組んだ。ブレーキ練習やハンドル操作練習を通じて、先ほど学んだことを実践し、身につけてもらう。発進する時は自転車の“かまえ”をとり、右後ろの安全を確かめるよう指導員が繰り返し呼びかけた。
大石小学校では校庭での練習に加えて、学校周辺の道路を走るという課題もある。指導員や先生方、警察官が道路に立って、児童が「止まれ」の標識がある交差点などを走行する様子を見ながら、適切な安全行動がとれるよう指導している。
大石小学校で交通安全を担当している教諭の免取（めんどり）将大さんは「子どもたちに交通ルールを守ることの重要性を伝えるために、交通安全教室を実施しています。Hondaのプログラムはクイズ形式になっていて、子どもたちが参加しながら楽しく学べるように工夫されていると感じました。特に自転車の座学は、その後の実技へとスムーズにつながる内容になっています。自転車のルールや安全な乗り方を私たちも再確認できたので、日頃の交通安全指導に役立てたいと思います」と語った。
伊藤さんも「小学生 自転車の交通安全」を取り入れたことで、自転車のルールなどをよりわかりやすく児童に伝えられるようになったという。「自転車のルールについては、昨年度までは実技の前に校庭で簡単に説明する程度でした。Hondaのプログラムを活用することで充実した座学ができると思い、今年度から使い始めたというわけです。自転車のルールを知っているか尋ねると、子どもたちのほとんどは『知っている』と答えます。しかし、具体的なルールについて質問すると間違える子どもも少なくありません。ですから、座学にも時間をかけることは大切だと考えています。自転車は中学・高校生になっても利用するので、実技を通じて自転車の正しい乗り方を身につけておくことがその後の安全運転につながります」。
今、伊藤さんが最も力を入れているのが、児童が自転車に乗る際のヘルメット着用の促進だ。そのため、今回の大石小学校のように実技で校外の道路を走る時はヘルメットの着用を必須としている。交通安全教室の時にヘルメットがない児童は原則、自転車で校外を走れない。ただし、現在は猶予期間として、ヘルメットを用意できない児童には坂井市などが貸出をして対応している。「ヘルメットは子どもの命を守るためのものです。交通安全教室の前に各家庭がヘルメットを購入すれば、普段も継続して着用してもらえると考えています」と、伊藤さんは警察署とも連携しながら小学校やPTAを通じて保護者にはたらきかけを行っている。「Hondaのプログラムによって、ヘルメットの着用について、以前より詳しく説明できるようになりました。来年度以降、自分のヘルメットを持って交通安全教室に参加してくれる子どもが増えていくことを期待しています」。

直線コースを20m走行し、左ブレーキで減速した後、両手ブレーキでしっかり止まる練習

パイロンの間を走り抜け、ハンドル操作に必要なバランス感覚を身につける

発進する時は常に自転車の“かまえ”をとるように指導

校庭での練習が終わった後、自転車で小学校周辺の道路を走る児童

1年生の交通安全教室ではHondaの交通安全教育プログラム「できるニャンと交通安全を学ぶ 小学校低学年歩行編」が活用された。
プログラム内容については以下のホームページを参照。https://www.honda.co.jp/safetyinfo/nyan_safety_2/

1年生は体育館の中につくられた模擬の交差点で「止まる」「観る」を実践

写真左から、坂井市総務部安全対策課交通指導員 伊藤恵子さん、八十島房栄さん、今村真奈美さん